

阿児町東部地区小学校建築・造成設計業務公募型プロポーザルの審査における講評

阿児町東部地区小学校建築・造成設計業務 プロポーザル方式選定委員会委員長

(1) 総評

志摩市では、地域住民の要望を受け沿岸部にある5地区の小学校を統合し、高台移転の計画を進めている。この計画は、今後予想される各地区での児童減少、及び大震災に対する具体的対策として対応が急がれているものである。本プロポーザルは、この統合小学校（阿児町東部地区小学校）の計画・設計に適切に対応できる設計者を選ぶために行われた。予定された敷地は起伏のある不整形な形状であり、ここに歴史ある複数の小学校を統合すると同時に、災害に強い防災拠点、あるいは避難所としての機能を必要としており、高度な計画、設計技術提案の可能な設計者を求めるものである。

審査は2段階で実施した。第1次審査では、技術資料の提出のあった8者を、設計事務所と実施体制の評価、及び本業務への適応性の視点から5者に絞り込んだ。その後この5者に対して、「5地区の歴史・伝統等を継承しつつ新たな大きな輪ができる学校づくりと、災害時には児童の安全を確保でき、地域の避難所として活用できる施設づくり」（テーマ1）と、「現在の地形や自然環境を活かしつつ、計画建築物と駐車場を無駄なく効率的に配置し災害時地域の拠点となる施設計画」（テーマ2）「施設のLCC（ライフサイクルコスト）を視点にコスト低減、省エネ、自然エネルギーの活用など環境に配慮した施設計画」（テーマ3）に関する技術提案を求めた。5者から技術提案書が提出され、これに対するヒアリングを行った。

テーマ1は、歴史ある5地区の小学校の統合、さらに最重要課題である災害対応という課題を校舎計画に求めたものである。各者とも対象地区の事前調査を踏まえた提案がなされたが、具体的スペースに反映されたかどうかのポイントとなった。災害対応については、日常の教育活動にまで踏み込む積極的提案も見られた。テーマ2では、不整形な敷地に対する土地利用計画、とりわけ造成計画の適切さに関する技術テーマである。校舎、運動場、駐車場の配置は各者各様であり、計画案の選択肢の多様性が示されることになった。テーマ3は、環境技術に関する技術課題であるが、志摩地方の気候風土に対する理解度、公共施設のメンテナンス、超寿命化についての技術提案が示された。

全体的には、きわめて限られた時間の中で、地域調査を踏まえた具体的提案がなされた。起伏がある難しい敷地計画条件でありながら、各者ともこれまでの実績に基づき、本プロポ

一ザルの主旨を踏まえた技術提案が示されたことに敬意を表するものである。造成計画と校舎配置の整合性は全体計画を左右する重要な論点となった。設計候補者については、それらを総合的に配慮した技術提案を提示した点で高い評価を得たといえる。

（２）個別講評

設計候補者＜提案者５＞

敷地を３段のレベルに造成し、南西側の一番高いレベルの切土地形に沿わせて校舎を配置している。校舎東側には既存樹木を活かした残置林を残しており、全体として敷地の特性を活かした無理のない土地利用計画となっている。最も重要な課題である災害時の施設としては、体育館を敷地中心部に配置し、駐車場、運動場などと連携しやすい計画が示された。また、校舎内には、地域交流室、地域・防災学習室を設定し、日常時より地域防災教育の拠点としている点は高く評価された。学年ユニットごとに分節化された教室構成、ユニット間の「地区の入り江」と称する学習スペースは５つの学校の地域歴史を学ぶ場としても期待できる。全体的にバランスよく課題に答えた案であることが評価された。

次点者＜提案者１＞

敷地を２段のレベルに造成し、切土部分に校舎とグラウンドを同一レベルで配置している。一段低いレベルに約２００台の大規模な駐車場をまとまって確保しており、不整形な敷地形状であるにも関わらず、整った土地利用計画が特徴となっている。校舎の平面構成においては、「あごっ子モール」と名付けられた特別教室を集合させた一連のスペースが示され、地域を学ぶ魅力的な空間となっている。校舎全体は、豊富な日射と潤沢な雨量を特徴とする地域の気候風土を踏まえ、形態材料の選択などメンテナンスのしやすい適切な提案がなされた。全体としてまとまりのある案として評価されたものの、運動場が校舎北側に配置されたことが議論となり次点にとどまった。

＜提案者２＞

「ひとつ屋根の下」という考え方を中心に、屋内体育館を含む校舎全体がコンパクトな平面形におさめられた構成として提案された。オープンスペースで連結された教室空間と中庭を内包するスペースのあり方は、これからの学習空間として魅力的である。しかしながら、外部に広がる豊かな自然を擁する周辺環境との関係性が希薄であるという点に疑問が残った。また、プールの配置は校舎配置と整合していないこと、校舎のかかなりの部分をフラットルーフが占めるなど、機能上課題が残った。

＜提案者３＞

敷地を２段に造成し、南側に運動場、北側に校舎を配置することを可能にしている点が評価

された。2棟の校舎棟のうち、北棟は一段低いレベルに配置され、2階建ての2階部分が南棟とフラットにつながっている。校舎間の中庭は、石垣に囲まれた落ち着いた外部空間を提示している。結果的に建物全体の高さが低く抑えられ、台風等の強風に対応した校舎形態である。環境学習に力点をおいた提案は他にないが、防災に対する十分な提案がなされなかった。また盛土と切土にまたがった校舎の構造の考え方、5地域の文化歴史を反映する計画が十分示されなかった。

<提案者4>

敷地全体をほぼ平坦に造成することで、ロの字型の校舎と体育館を敷地中央部に配置可能としている。5地区の歴史文化を5つのコマ入り屋根の形状に託したデザインが示された。体育館と校舎棟の間にある大規模な大屋根空間、体育館前の広大な広場については、技術提案上重要と考えられたが、スペースの必要性、どのように有効利用できるかという点で十分な説明を聞くことができなかった。また全体的にこれからの小学校としての空間的特徴、魅力が見られなかった。